

当報告の内容は、報告者の著作物です。  
Copyrighted materials of the authors.

「モンゴル諸語の言語変容：内的要因と外的要因」

(2020年度第2回(通算第6回)研究会)

Synchrony and Diachrony of Mongolic Languages: Internal and External Factors (The 6th meeting)

日時：2021年3月23日(火)

Date: 23rd Mar. 2021

場所：Zoomによるオンライン開催

Venue: Online meeting via Zoom

Language: Japanese

通算第6回目、本研究課題最後の研究会となる今回は、研究課題の主目的の一つとして掲げてきたデータベースの構築・拡充について、「モンゴル諸語関連オンラインリソース開発報告」としてその報告をおこなった。

#### 1. 山越康裕 (AA 研)

「モンゴル諸語テキスト資料集成」

AA 研 IRC プロジェクト「モンゴル諸語テキストのオンライン公開」として、報告者がこれまで公刊してきた言語資料の音声・分析付きデータベースである「モンゴル諸語テキスト資料集成」の概要を紹介した。他者の研究資料を置く設計になっていること、比較的整形の負担が小さい構造となっていることなどの利点を中心に報告した。その一方で、自由度が現状低いこと、現地還元を目的とした場合のアクセシビリティなどに課題が残ることが指摘された。

参考 URL : <https://mongolictxt.aa-ken.jp/>

#### 2. 児倉徳和 (AA 研)

「河西回廊モンゴル諸語 3in1 全文検索システム」

2015年度からの2年間展開したAA 研共同利用・共同研究課題「公刊資料に基づく中国・河西回廊地域モンゴル諸語の研究」の成果としても構築を進める「河西回廊モンゴル諸語 3in1 全文検索システム」の構築状況について報告した。公刊資料をベースにしているため、公開範囲や利用者制限といった問題を今後解決していく必要があること、データ整形のチェックを行っていくこと、資料間相互のひも付けをおこなうことなど、今後の展望も示された。

#### 3. 早田清冷 (AA 研共同研究員, AA 研)

『清文彙書』デジタル画像の IIIF 対応」

AA 研 IRC プロジェクト「『清文彙書』デジタル画像化」として報告者が展開している、個人蔵の『清文彙書』の画像公開の状況について報告がなされた。画像データの国際的な

標準化・相互運用性を高める枠組みである IIIF に対応することで画像の相互比較が容易になったこと、その結果これまで看過されてきた文献学上の問題を発見できる可能性があることなどが報告された。さらに、IIIF への対応自体が大きなプロジェクト等に頼らずとも展開可能であることなどについても紹介がなされた。

参考 URL：<https://manjuisabuhabithe.aa-ken.jp/>

#### 4. 栗林均 (AA 研共同研究員, 東北大学)

「シラ・ユグル語基本語彙音声データベース」

報告者が長年継続して構築を進める「モンゴル諸語と満洲文語の資料検索システム」に、あらたにダグル語やシラ・ユグル語といったモンゴル系の少数言語の音声付き基本語彙検索システムが加えられたことが報告された。現段階ではダグル語の 2 方言, シラ・ユグル語の基本語彙約 800 語について、その音声を聞くことが可能となっている。

参考 URL：<http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p05/kdic/list?groupId=40>  
<http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/>

現地調査が困難を極める状況下で、このような資料の公開は他の研究者に非常に有益であり、資料を活用することでデータベースがより改善の方向に進むことも期待される。これらオンラインリソースを中心に、よりいっそうの研究の進展が望まれる。なお、これらを含めたモンゴル諸語関連のオンラインリソースは、本研究課題のウェブサイトにてリンク集として集積している。<https://sites.google.com/view/ilcaa-mongolic/>

(文責：山越康裕, 発表要旨は発表者による。敬称略)